

技術士だより

—(株)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター 秋季号<第9号>(平成3年9月15日発行)

◇巻頭言

「登録即入会」を実現しよう

水上 信昭 (副支部長・福岡・建設部門)

去る5月の総会で九州支部・副支部長の重責を仰せつかりました。皆様のご協力を得て精一杯の努力をいたす覚悟でございます。よろしくごお願い申し上げます。

本年は(株)日本技術士会創立40周年に当り、又支部・センターも発足26年を迎えることが出来ました。土居貞夫前支部長の2期4ケ年のご努力により、組織の充実、会員増強等目ざましい進展を見ています。

翻って、支部・センターの26年の歩みを顧みますと、昭和40年、会員数69名(支部会員25名、センター会員44名)、支部長・会長は轟謙次郎先生として発足しています。なお、センターは北海道と共に全国的に2地区のみですが、設立の理由は、当時官公庁在職の合格者が多く、又技術士試験の受験講習を行うため支部と同時に発足しています。当初の活動は技術士の活用に対する情宣活動に努め、顧問に各省の地方局長、各県知事をお願いしています。建設コンサルタント登録に技術士が必須条件に採用されていますが、当時の技術士会の働きかけによるものと聞いています。

その後の支部の経過を見ますと、昭和53年の第5回全国大会(於福岡市)、昭和63年の第15回全国大会(於別府市)を支部・センター主催で実施された時、組織の確立、会員増強が実現しています。会員数で見ますと、前者では107名、後者では160名と飛躍的に増強されています。イベントの実行は組織の強化と会員動員による相互の連帯意識の強化が見られ、その後の支部活動の原動力になっています。

技術士会が、活発に躍進し、魅力ある会になるためには、財政基盤の確立が必要です。現在支部会員245名、センター会員502名となり、活動の絶対数の確保は出来たものと思われまます。会員皆様のご協力と、役員一同の献身的努力の賜物と思います。同慶の至りです。

しかし、九州地区の有資格者、約1,000名、登録者782名の実態を見ると、今後の技術士会の活性化のためには一層の会員増強が望まれます。その方法論として提案しますと、

- 1) 会員1人が2人の会員を勧誘すること。
- 2) 会員の出身校の同窓会、出身職場(現職、OB合同)の技術士会を作る。
- 3) 過去、現在の職務上の交友、企業内技術士の組織を作る。

以上、組織作りと人物の掘り起こしを会員一人ひとりが積極的に行うことです。

なお、(株)日本技術士会の実態は、技術士2次試験合格者は約4万名、登録者は23,000名に対し(株)日本技術士会会員は4,057名です。入会率は登録者の18%、有資格者の10%(九州地区は登録者の26%で全国平均を上回っている)と低率であります。根元的には、「登録者即入会」の実現のため法改正が望ましいが、それ以前に、総理府令、又は科学技術庁長官告示、あるいは行政指導という措置で「技術士は日本技術士会の会員とする」が実現可能ともいわれています。本部・支部にこのための特別委員会を創設し、具体的方策と行動目標を定め実行することが必要です。本部の顧問、九州選出の国会議員で、元科学技術庁長官、技術士(建設)のM先生にご相談することも一策であると思います。少なくとも「登録即入会」実現のため、まず行動を起こすことを提案します。

1人でも多くの入会をお勧め下さい

※私の提言 「魅力ある技術士会をめざして」

政野 光男 (試験委員長・福岡・建設部門)

友人を、日本技術士会に勧誘する時必ず返ってくる言葉が、「技術士会に入会してどんなメリットがあるのか」という問いである。私自身この問いに対して明解な回答案を持ち合わせていない。今回は自分の考えを纏める意味で整理してみたい。魅力的な技術士会を育てるために。

1. 技術士のメリット

- (1) 技術士の名称を使用することにより、高等の専門的能力を有する技術者として、関係機関・企業等に信用される。
- (2) 建設コンサルタント業を、建設省に登録する場合、登録部門に関係する専門科目の技術士がいなければ登録ができない。
- (3) コンサルタントに勤務している企業内技術士の大部分は、企業から資格手当を支給されている。

2. 日本技術士会会員のメリット

- (1) 毎月情報誌「技術士」が配布される。
- (2) 毎年開催される技術士全国大会に参加でき、異業種の技術士と幅広い情報交換および親睦交流ができる。
- (3) 適時開催される技術士会各部会の見学会・講演会等の行事に参加でき、必要な技術情報を得ることができる。

この程度のメリットでは相手を説得することは難しい。未加入の皆が求めている“メリット”とは一体何んだらう？ 私は「魅力的な技術士会」の存在ではないかと考えた。権威ある日本技術士会の傘の下で、技術士業務に従事できることを望んでいるのではないだろうか？ 魅力に満ちた「権威ある日本技術士会」この実現こそ、会員にメリットを与えようと思うのである。実現を図るためには強力な組織が必要である。この源泉は会費である。どうしても会員を増やさなければならない。掛け声だけで解決はしない。実行あるのみである。

私の提言

1. 会員倍增運動の実施

技術士会を名実ともに魅力的な「権威ある会」にするため、社会的評価の高い業績をおさめた未加入の優秀な技術士は云うに及ばず、一人の新人を会員各自が入会させる努力をすること。

2. 日本技術士会に期待すること

学会、諸官庁、民間の各種委員会に、日本技術士会が働きかけ、会員の中から広い知識と経験を有している人を委員に推薦し、技術力で社会に貢献できる場を積極的に設定して戴きたい。大学の非常勤講師しかりである。会員のための価値ある活動支援こそ、技術士会及び会員の社会的地位の向上発展につながると思う。

3. 特別委員会の設置

物事を成功させるためには組織が必要である。共通の目的を持った同志の協力が必要である。魅力的な「権威ある日本技術士会」を育て上げるためには、これまで築き上げてきた考え方や方針を捨て、新しい事態に適合していく柔軟な体制と、発想の転換が必要だ。実行力のある組織をつくるため、30、40、50、60才代から意欲的な士を選び委員会を設けたらどうであろう。委員会を「老人会」（暦年齢でなく精神年齢）にしてはならない。若きこそ、改革の原動力である。

21世紀まであと8年数ヶ月、わが国の外的環境は急速に変化しつつあり、かつて経験したことのない激動期にある。我々は今、世界史の一大転換期に直面しているのかもしれない。急激な産業構造の変化に技術士会も対応せざるを得ない。いたずらに時流に押し流されておくれをとることがあってはならない。

日本列島の気象が西から東に移動して行くように、日本文化が九州から本州へと開花して行ったように、九州支部の力を結集して“魅力ある技術士会”を育てよう。(おわり)



日本技術士会近況

1. 平成3年度新役員決まる

☆理事選挙 5月22日(定員30名、定款17条)

☆33回定時総会 5月27日

(会長、副会長 定款18条)

☆第2回理事会 6月27日

会長 上田 稔(建設)

副会長 本田 尚士(化学)、越河 良雄
(電気電子)、藍 光郎(機械)

専務理事 保坂 彬夫

常務理事 谷嶋 操

理事

青山 豊(学、織) 岡本 成之(糧、北海道)

稲松 敏夫(穀、機) 川浦 昭平(機、機)

土居 貞夫(靴、州) 秦 庄司(機、中)

吉川 謙造(穀、靴) 小川 和夫(金属)

梶山 正之(林業) 金沢 敬(府機)

川島 和幸(水産) 木下 郁也(備機)

木村勝三郎(機械) 久野 一郎(建設)

倉貝 嘉郎(機械) 小針 輝夫(電機)

石 省三(建設) 徳永 政男(電機)

中江 利昭(農業) 中川 義徳(水道)

平島 覚(船舶) 堀 泰明(化学)

前田 秀則(靴工) 水野 淳(繊維)

山田 俊満(建設) 大渡 焔一郎(靴工)

監事

永井 雄一(穀、府機) 長友 正治(機械)

渡辺 武揚(電機)

2. 平成3年度第1回支部長会議(一部既報)

日時:平成3年6月28日

原井東男支部長出席し、下記要望事項を提出。

(1) “魅力ある技術士会、活力ある技術士会、躍進する技術士会”を創出する特別委員会を40周年記念事業の一環として設立することを提案する。

(2) 登録者名簿の作成を早急にお願ひする。

(3) 九州支部が毎年行っている“地方公共団体との合同セミナー”に対し補助制度を設けるようお願ひする。

(4) 技術士会試験事務及び受験説明会補助金の増額をお願ひする。

(5) 会員の動静(入・退会者)に関する情報は毎月末に連絡すること。

◎ 技術士全国大会へのお誘い!

創立40周年記念全国大会が、下記の日程で開催されます。

☆開催日 平成3年11月29日(金)

☆開催場所 東京都新宿区西新宿2-2-1

「京王プラザホテル」

TEL 03-3344-0111

☆メインテーマ

科学技術が地球を救う

—自然と開発の調和と融合を求めて—

☆行事内容 分科会、パネル討論会、記念講演会、記念式典、懇親パーティ等。

その他、大会の前後日に研修見学旅行(レディースコース、ゴルフを含む)を企画しています。

※ 申込方法等詳細については、事務局までお問い合わせ下さい。

(社)日本技術士会近況 おわり)

技術士会九州支部・九州地方技術士センター

行事・会合などの報告

1. 第1回常任委員会

日時:平成3年6月22日(土) 13:00~16:00

場所:福岡市 サンライフホテル

議事:(1) 委員会細則の一部改正について

(2) 平成3年度常設委員会事業計画(案)について

(3) 平成3年度各地区事業計画(案)について

(4) 平成3年度事業計画の執行について

(5) 総会にて付託された規約改正について

(6) 委員会細則の一部改正について

(7) 地区事業補助費について

(8) その他

（支部・センター 行事会合報告 つづき）

2. 平成3年度第1回合同役員会
 日時：平成3年6月29日(土) 13:00～16:00
 場所：福岡商工会議所 604号
 出欠：九州支部定数30名 出席 21名
 委任状 7名
 九州地方技術士センター定数32名
 出席 17名, 委任状 10名

議題：

○審議事項

- (イ)常設委員会の構成について
- (ロ)平成3年度常設委員会事業計画(案)

- ノ(ハ)平成3年度各地区事業計画(案)
- (ニ)平成3年度事業計画の執行について
- (ホ)総会において付託された規約改正について
- (ヘ)委員会細則の一部改正について
- (ト)事務局の補充について
- (チ)その他

○報告事項

- (イ)本部理事会報告
- (ロ)支部長会議報告
- (ハ)平成3年度技術士二次試験・一次試験申込み状況について

◎九州支部常設委員会名簿

委員会名	担当・副支部長名	委員長名	委員名
総務委員会	水上 信照 (福 建)	長・重富 秀雄(福 経) 副・小川 康夫(福 建) 小松 栄一(北 経)	児玉 久(北 応) 向井 治孝(佐 建) 田中 武熊(長 建) 林 博昭(熊 農) 今村 欽一(大 農) 新城 精一(宮 建) 上野 光夫(鹿 建)
試験委員会	水上 信照 (福 建)	長・政野 光男(福 建) 副・力丸 恒久(福 建)	是石 俊文(福 建) 斎藤 健男(福 建) 辻 和毅(福 応) 前田 剛志(福 建) 小林 正毅(福 建) 上野 篤秀(鹿 建)
事業委員会	青山 次則 (熊 建)	長・笠木 直行(福 建) 副・三原 節夫(福 水)	北原 徳雄(北 化) 蒲生 文夫(佐 建) 藤永 勝之(長 応) 淵田 精三(熊 建) 児玉源一郎(大 建) 臼井 士郎(宮 建) 泉 恒雄(鹿 電)

◎九州地方技術士センター常設委員会名簿

委員会名	担当・副会長名	委員長名	委員名
受験対策委員会	矢野 友厚 (福 建)	長・町田 貞徳(福 電) 副・久保田信一(福 建)	第二次試験受験者研修講座 担当講師
研修委員会	矢野 友厚 (福 建)	長・矢野 友厚(福 建) 副・清崎 義春(熊 建)	瀬瀬 良男(北 機) 小部 晃(佐 林) 芳賀三千億(長 経) 川野 宏平(大 農) 井川 仁(宮 建) 上野 篤秀(鹿 建)
活性化委員会	新城 精一 (宮 建)	長・斎藤 清美(福 衛) 副・眞鍋 和義(福 水)	大村 力(北 電) 藤永 正弘(佐 建) 福岡 辰義(長 建) 吉田 紘彬(熊 応) 八鹿 昭祝(大 建) 谷口 忠俊(宮 農) 中山 義雄(鹿 応)

◎平成2年度・常設委員会・地区年次計画

◇総務委員会（委員長 重富 秀雄）

- (1)事務局強化のため積極的支援体制を整える。
- (2)会員増強運動の実施（平成3年10月～平成4年3月）
- (3)賛助会員の拡大・賛助広告の募集強化運動を実施する。（平成3年10月～平成4年3月）
- (4)他委員会との連携を密にし、調整・支援に務める。

◇事業委員会（委員長 笠木 直行）

- (1)技術士業務の開発・普及および啓発活動に関する事項
 - 関係各省庁ならびに九州各県内期間に対し、技術士制度のPRを行う。
 - 諸官庁に会員名簿の配布をする。
 - 産官学の公的行事への積極的参加。
 - 企業診断の技術士活用。
 - センター活性化委員会との共同活動。
- (2)本部より委嘱された事業およびこれに準ずる事項
 - 委嘱事業等の推進。
- (3)会員の実務研修・資質向上に関する事項
 - 第4回九州地方公共団体職員と技術士との合同セミナー開催
場所：大分県、時期：平成4年1月下旬
 - 技術部門別活動の推進
 - センター研修委員会との共同活動
 - 講演会、研修会、見学会等の開催
年間で3回程度

◇受験対策委員会（委員長 町田 貞徳）

- (1)第1回受験対策総合講座 4月26日(土) 済
- (2)第2回 " 6月8日(土) 済
- (3)第2回模擬試験 6月9日(日) 済
- (4)第3回受験直前対策講座 7月27日(土) 済
出題予想問題の提示が主。他、受験直前の講習。
- (5)第4回受験対策講座 11月16日(土)
筆記試験合格者対象の口頭試験対策指導。
—以上、いずれも会場は福岡商工会議所。
時間は、9:00～17:00
- (6)技術士補合格研修会 平成4年2月
新合格者を対象、技術士受験準備の講習。
- (7)技術士受験説明会で講習会実施の案内
平成4年3月

◇研修委員会（委員長 矢野 友厚）

- 会員研修、新技術士補合格者の研修会及び合格祝賀会は前年同様第4四半期の平成4年2月22日開催を予定している。
なお、研修内容については12月中旬を目処として検討を進めていく。

◇活性化委員会（委員長 斎藤 清美）

- (1)活性化に対するシンポジウムの開催
- (2)委員会の各地区持ち回りによる開催

☆福岡地区（代表幹事 水上 信照）

- (1)今後の役員会は偶数月第4土曜日とする。
- (2)当面役員相互緊密を図り、支部・センターの活動に積極的に参加する。
- (3)講演会、研修会、見学会は当面部会活動を支援する方針とする。
- (4)技術士業務拡大の具体的活動を積極的に行う。
- (5)青壮年部（45歳以下）の結成を企画する。
- (6)総会、懇談会の開催を企画する。
- (7)事務局強化のための事務機器、及びボランティア活動に積極的協力する。

☆北九州地区（代表幹事 児玉 久）

- (1)地区会員月例会開催。毎月第3土曜日。
- (2)北九州商工会議所特別窓口技術専門相談員として、毎月第3・第4月曜日、技術相談を担当。地域の技術振興を援助。
- (3)技術交流講演会を開催。
- (4)国際協力事業団（JICA）、九州国際センター（KIC）の研修機関構成員に積極的に参加。（駐、輻コ-リ-ダ-4名。翻10名。）

☆佐賀地区（代表幹事 向井 治孝）

- (1)7月 県内技術士懇談会
- (2)10月 関係官庁へのPR
- (3)3月 新規合格者の祝賀会

☆長崎地区（代表幹事 田中 武熊）

- (1)長崎県技術士会幹事会 8月下旬
- (2)総会 9月中旬開催予定
- (3)長崎県技術士会幹事会 9月上旬
- (4)青年技術士会の開催 10月下旬
- (5)第二次試験受験申込書配布講習会
平成4年2月下旬～3月中旬

（平成3年度 地区 年次計画 つづき）

☆熊本地区（代表幹事 青山 次則）

- (1)シンポジウム（水と環境）
テーマ 1 環境保全とごみ処理 10月
テーマ 2 地下水の保全と利用 3月
(2)熊本県技術士会懇談会 12月
(3)土木学会主催「土木の日」事業支援 11月

☆大分地区（代表幹事 今村 欽一）

- (1)PRと会員増強を兼ねて、大学、関係企業訪問を行う。
(2)会員研修を兼ねて、異業種交流研究会・技術移転研修会・産学交流会議等へ積極的に参加する。
(3)活性化事業として、会員並びに一般企業の参加を求め講演会を開催する。
(4)平成3年度の“地方公共団体との合同セミナー”を平成4年1月下旬に執行する。

☆宮崎地区（代表幹事 新城 精一）

- (1)平成3年3、5月 技術士、技術士補の願書配布説明会
(2)平成3年5月20日 宮大の土木の学生を対象に技術士・技術士補の説明会を実施

- （3）平成3年6月28日 土木学会西部支部主催「パソコンを用いた地下水解析の講習会」に協力
(4)平成3年7月14日 宮崎県技術士会総会
(5)平成3年11月18日 土木学会西部支部主催「土木の日」事業に協力
(6)その他 技術士・補受験講習会
懇親ゴルフコンペ

☆鹿児島地区（代表幹事 上野 光夫）

- (1)技術士の職業化への推進を図る。
(2)九州支部の事業活動に協力。各種委員会活動に参加協力する。
(3)技術士試験の受験対策に協力する。
(4)会員名簿の冒頭に「技術士制度の要約」を掲載し、会員の専門科目を記載紹介、関係各機関に配布PRを図る。
(5)青年部会活動を推進する。
(6)大型ロケット発射実験の見学会を企画し、可能な限り支部行事としての企画を推進する。
(7)異業種交流の促進を図り、県の窓口になるカタライザーに専門技術士の登用を要望する。

◎第1回合同部会長会議

日時：平成3年7月26日（金）

場所：福岡市 博多第一ホテル

出席者：原井支部長、水上副支部長、青山副支部長、矢野副会長、新城副会長、
第1部会 田島部会長
第2部会 （欠席 川崎部会長）
第3部会 江崎部会長
第4部会 三原部会長
第5部会 保澤部会長
第6部会 芳賀部会長
総務委員会 重富委員長
事業委員会 （欠席 笠木委員長）

議事要旨：

- (1) 部会運営基本方針(案)について協議
基本方針(案)の1部を再検討し、次回部会長会議（平成3年9月7日予定）で再検討する。

- （2）平成3年度行事予定の提出について
8月31日までに各部会の本年度事業計画案を提出する。

各部会の行事計画を取りまとめ、次回の部会長会議で各部会間での合同開催等の可能性を検討し、集約調整する。

- (3) その他

第4部会の三原部会長から、上下水道コンサルタント協会九州支部主催の見学会に自主参加の紹介があり、支部として、全会員対象に案内状を配布し、任意参加することとした。

見学会開催日：平成3年9月13日

見学場所：福岡市中部下水処理場

その他、各部会長から、小人数の部会単位での研修会等の開催は無理ではないか、出来れば部会が合同で開催した方が、より効率的ではないかとの意見が出され、年度計画(案)の提示後検討することとした。

（支部・センター 行事会合報告 おわり）

支部・センター委員会だより

◇ 郷・総務委員会 (重富委員長)

1. 平成3年度版会員名簿の作成・配布
2. 第1回総務委員会
日時：平成3年7月27日(土) 13:30~15:00
場所：福岡商工会議所 605号
議題：“技術士だより”第9号編集打合せ
3. 平成3年7月26日第1回部会長会議開催
(前掲 部会報告 参照)

◇ 郷・試験委員会 (政野委員長)

平成3年度の技術士試験の日程は、次のとおり決定した。

- (1) 平成3年度技術士第二次試験
日時：平成3年8月21日(水) 8月22日(木)
場所：九州大学工学部
申込者数：1,424名
内訳 建設 947名
建設以外 477名

- (2) 平成3年度技術士第一次試験
日時：平成3年10月13日(日)
場所：東和大学
申込者数：448名

- (3) 受験者伸び率 (福岡会場)
右の表のとおり。 →

年度	技術士第二次試験		技術士第一次試験		備考
	申込者	伸び率	申込者	伸び率	
H元	1,165人	1.00	315人	1.00	H元年を1.0とする。
H2	1,274	1.09	382	1.21	
H3	1,424	1.22	448	1.42	

◇ センター・受験対策委員会

(町田委員長)

1. 第2次筆記試験直前対策講座実施
平成3年7月27日(土)、福岡商工会議所で直前対策講座を実施した。受講者42名講師42名。本年度の特徴は建設部門の受講者が増加した反面、建設部門以外の受講者の減少が目立った。これは建設業法改正の影響がそのまま反映しているものと考えられる。
2. 第2次口頭試験対策講座予告
日時：平成3年11月16日(土) 9:00~17:00
場所：福岡商工会議所 604, 605号
内容：口頭試験一般対策
口頭試験質問内容のまとめ
前年合格者体験発表
模擬面接試験と講評指導

☆ 試験委員会の記録

- (1) 第1回試験委員会
日時：平成3年7月20日(土) 13:30~16:00
場所：福岡商工会議所 603号
議題：
① 平成3年度試験委員会事業計画について
② 筆記試験監督員候補者選出について
③ その他

◇ (2) 第2回試験委員会

- 日時：平成3年8月20日(火) 13:30~17:00
場所：九州大学工学部防音講義室
議題：① 試験実施に関する注意
② 試験会場の設営

* この“技術士だより”が会員の皆様に届く頃には、技術士第二次試験筆記試験は無事終了していると思います。

(支部・センター委員会だより-おわり)

声の広場 地区活性化だより -7- 北九州地区

北九州地区代表幹事 児玉 久

当地区の会員の現状は次のとおりです。

部 門	支 部 会 員		セ ン タ ー 会 員		部 門	支 部 会 員		セ ン タ ー 会 員	
	正 会 員	準 会 員	正 会 員	準 会 員		正 会 員	準 会 員	正 会 員	準 会 員
機 械	4	1	6		衛 生 工 学	1			
電 気 電 子	5		6		農 業			1	
化 学	1				経 営 工 学	3 (2)		1 (1)	
金 属	3		2		情 報 処 理			1	1
資 源 工 学			1		応 用 理 学	2	1	1	
建 設	7		9	3	計	28	2	30	4
水 道	2		2						

注：()内は2つの部門にわたる会員の片方の所属部門を指す。

比較的各部門に分散しているため、情報交換・技術相談も広範囲に出来、便利でプロジェクト化にもつながっている。

(1)地区会員月例会 毎月第3土曜日

地区の中央に位し交通の便利な戸畑中央公民館での月例会は、当地区会員の活動の拠点でもあり毎回10名程度は集まり、各種の情報・技術相談が提出され様々な対応策が論議され早速実行に移されている。

去る8月の例会では、韓国三星重工(株)昌原鋳鋼工場で役員待遇のアドバイザーとして活躍中の高橋興一氏(金属部門)の”最近の韓国事情について”の講話は、体験談も交え示唆のある点が多かった。

月例会では午後5時までの締め切り時間では話題が尽きず、戸畑駅地下の食堂に居を移し討議することが屡々である。

(2)3月16日 技術士第2次試験申込書配布説明会開催

受験対策委員長 町田貞徳氏より参加者に申込手続き等を詳細に説明、引き続き受験対策

に関する助言およびスケジュール表等が示された。会員による合格体験談もあり、盛会裡に説明会を終わる。

(3) 北九州商工会議所主管中小技術相談員

市内の中小の技術レベルアップが目的で、毎月第3月曜日(小倉)、第4月曜日(八幡)の2ヶ所で相談に応じている。技術改善、合理化、新設備導入等の指導が主体である。

(4) 国際協力事業団(JICA)の研修機関への協力

JICA九州国際センターの協力機関、(財)北九州国際研修協会(KITA)のメンバーとして、技術士会員専属コースリーダーは
 [産業環境対策]
 [生産性向上技術]
 [産業機械の設計、製造、保全]
 [油圧とその応用]

の4グループコースで、その他会員の講師は多数で品質管理、メンテナンスの分野でも活躍している。

(地区活性化だより おわり)

(声の広場 つづき)

支部部会活動への期待

江火田 賢一 (応用理学)

技術士になって日が浅く、目下のところ諸先輩の活躍ぶりにいろいろのことを学ばせて頂いています。去る2月とこの8月の第二部会技術研修見学会に参加しました。よく準備された会の運びで、密度の濃い時間を過ごすことができました。私の技術部門は応用理学、技術分野は物理・化学で、第二部会の中でも数の少ない専門ですが、見学会では専門外の知識、情報も得ることができ、新鮮で有益な体験をすることができました。

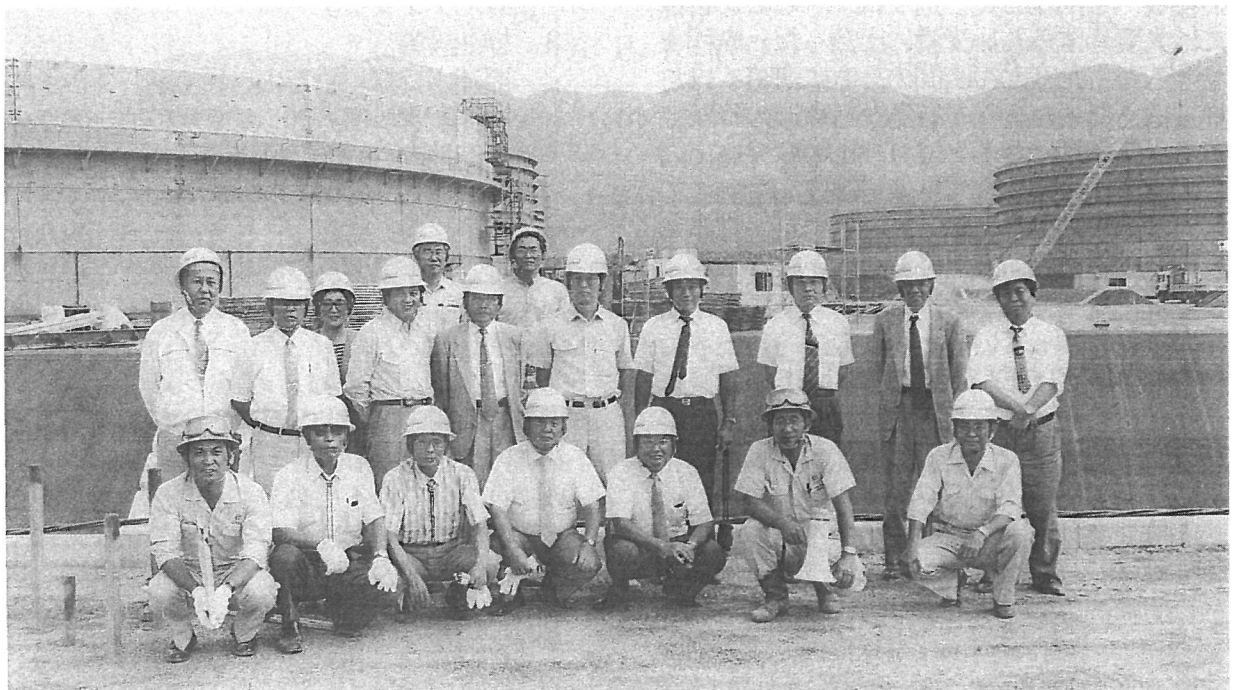
技術士に抱くイメージはコンサルタントという仕事への魅力の他、技術者としての自分を高めたいという希望があります。人的交流と情報・知識の交換への期待です。技術問題の解決に当り、この両者が必要なことは今更論を待つまでもないことですが、特に昨今様々な技術分野への関わりが必要不可欠です。技術士には特定の学、協会と違い全分野の専門家がおられるので、それらの方々と協力関係が持てれば、大きな力が得られるとの期待です。

私は現在企業内技術士ですが、企業内技術者としての立場では自分の責任でできる情報交換には限りがあります。その点技術士の立場では法で守秘義務が課せられており、情報交換が円滑に行われる素地が整っていると思っています。

今後の部会活動として、個人の資質向上のため知識を広め、人的交流ができる企画を望みます。技術フィロソフィーに関わる見聞も必要と考えますが、その意味では異業種・居分や野見学も勉強になると思います。その目的では部会横断的な企画も必要課と思いますが、そのためにも各部会が小集団活動の書くとして、着実に機能することが望まれます。

一方、企画の準備者等、特定の人々の犠牲負担の上に依存する活動は長続きしないので、会員の協力、応分の負担は当然必要だと思えます。私も早く テイク アンド テイクの段階を卒業して、ギブ アンド テイクの立場で協力しなければと考えています。

(声の広場 おわり)



志布志国家石油備蓄基地見学会記念写真
(組立中のタンクをバックに)



九州支部に第2部会が結成されて2回目の技術研修見学会であった。

本年2月に実施された都市トンネルNATM見学会が福岡市で行われてから、いきなり南端の鹿児島に飛んだのには訳がある。

志布志湾沖の埋立地で進められている石油備蓄基地建設工事が、見学にグッドタイミングだからである。このようなビッグプロジェクトの中で一連の工程を見学できる機会は、この時期を除いては考えられない。

以下、平成3年8月3日の見学日を振り返ることとする。

参加者は19名で、空港集合者13名、現地集合者6名であった。県別の内訳は福岡8名、北九州・佐賀・長崎各1名、宮崎3名、鹿児島5名であった。

小生は、地元との理由で本稿を一任されたため、空港集合から見学会、懇親会、観光案内(?)まで行事のすべてを取材することとなった。

さて、福岡・長崎からの面々を含めて空港集合部隊13名が揃ったのは午前11時少し前であった。4台の乗用車に分乗して一路志布志の現場へと向かった。道中県外からのお客様には大変めずらしい光景に出会った。先程まで明るかった空が短時間のうちに薄暗くほこりっぽくなったのだ。桜島から歓迎の降灰である。例年夏になると52万都市の鹿児島市内に降る火山灰が、今年は連日錦江湾を隔てて反対側の大隅半島に降っているのだ。11年ぶりに鹿児島市内方向に降らないというのがニュースになっても、大隅半島の人々が農作物等の被害で困っているというのはニュースにならない。実に気の毒である。同上の会員とそんなことを語りながら目的地に到着したのは午後1時、予定通りであった。現場事務所には弁当が用意されていた。

1時半より前田建設工業株の大串所長ならびに職員の方の紹介があり、直ちに志布志国家石油備蓄基地建設工事の概要が説明された。

<事業概要>

事業目的：石油の安定供給のため、国家備蓄法に基づき志布志湾に原油貯蔵施設を設け保管するもの

新屋敷 和明（鹿児島・建設部門）

全国で10ヶ所=4,010万k l

全国の12.5%（25日分）

我が国の石油依存度=55%（全エネルギー）

基地面積：A=196ha（出島方式埋立地）

1,300m×1,500m

備蓄方式：地上タンク方式 D=83.3m,

H=22~24m

貯蔵施設容量：V=500万k l

（11~12万k lタンク×43基）

完成時期：平成5年9月（平成4年9月以降一部オイルイン予定）

環境整備：日南海岸国定公園に位置するため基地周囲を高さ約20m、幅70~160mの築堤で囲み緑化する

<建設工事概要>

1. 貯油設備

鋼製地上式フローティングルーフトank

V=11~12万k l/基×43基

（直径D=83.3m,高さH=22~24m）

2. 受払設備

4~26万DWT級タンカー用固定式係留設備 1基、

φ406.4mm 3連式

ローディングアーム 1基

3. 操油設備

原油ポンプ：1,750k l/h 4台

原油配管：海底部 φ965.2×2条 1800m×2

基地内 φ965.2×2条 1000m×2

” φ1066.8×2条, φ914.4×2条

7500m×2

以上、事業概要及び施設概要を把握していただいたところで、見学会の様相をコース順に説明したい。

①基地南側の築堤上（高さ20m）に車で登り、基地内を一望する。タンクは概ね南側から完成に近づいているため、これが少々視界を遮っている。なお、今立っているこの築堤は、日南海岸国定公園に位置する基地を囲み、周辺環境との調和を計るもの。幅70~160mは大きい。

②原油移送管のうち陸上管見学

海底部と同径のAPI5L-X52, φ965.2mm×12.7-19.5mm, 被覆装は（次ページへつづく）

(行事レポートつづき)

t=3.5mmのポリエチレンライニングが施されている。海底部ではさらにt=96mmのコンクリートコーティングがなされているとのこと。

③用役及び公害防止設備地区

原油移送の基地内操作設備、数々の安全防災設備、一次排水処理等の公害防止設備、管理設備が設けられる。

水搬送工法による埋立ての際、土砂の吐出口をタンクの中心部に置いたため、末端にあたる当地区はシルト溜りとなり、基地内の盛土で最も軟弱な地盤。

④マウンド盛立、RCリング構築

この段階に至ると、後のプレロードやS.C.P工事がウソのように整然となる。いよいよタンク本体の組立準備完了だ。

⑤北側築堤より志布志を望む

志布志湾のもう一つの埋立地、志布志港周辺の白い倉庫、サイロ群が一望できる。志布志港付近からも、やはり本基地は緑色の島にしか見えないように設計されているということだ。

⑥プレロードの丘に登る

埋立地及び在来地盤の沈下を促進するためのプレロードである。原油タンク満タンに相当する荷重すなわち高さ14m ($\gamma_t=1.5t/m^3$)、直径約90mの砂の丘である。地盤条件によりやや異なるが、90日の放置期間で90%の圧密度に達するということだ。結構な早さだ。沈下管理は、プレロード施工前に設置された2ヶ所の層別沈下計と9ヶ所の平板沈下計で行われる。

このプレロード上より、基地内の全容が見られる。中でもプレロード撤去後に施工されるサンドコンパクションパイル(S.C.P)打設マシンの林立は壮絶である。ピーク時は、かなりの台数が日本全国からここに集結したようだ。そう言えば先程の事務所で地震かと疑ったのは、この作業の影響だったのだ。S.C.Pは $\phi 400mm$, $L=15m$ を約2mの正三角形配置で、1タンクに2,700本近く打設される。総延長 $\Sigma L=41km$ 基にもなる。ピントこない数字だ。S.C.P及びその周辺地盤の改良程度は、N値によってチェックされ、中でも、

、KHK(危険物保安技術協会)の立会が最も緊張するということであった。S.C.Pに限らず他の工種でも然りである。

⑦タンク組立現場

幅2.5m×長さ10m(?)×厚さ38~12mmの鉄板が大型クレーンに吊り上げられ、高度な溶接が施される様を見ると、プレロードやS.C.Pそれを支えているのだということをおぼろげに忘れてしまい、いよいよ完成が間近であることを感じさせてくれる。このタンク天井部分=フローティングルーフは、各社がノウ・ハウをもっており、部外マル秘の中で作業が進められるらしい。

タンクの組立現場を最後に、約1時間半の現場見学は終了した。再び事務所に戻ると冷たい飲物が用意されており、一息ついたところで質疑応答があった。ここでは代表的な質問を列記する。

- (1)プレロードとS.C.Pの施工順が逆な気がするが特別な理由があるのか。
- (2)護岸の基礎処理法と断面形状を知りたい。
- (3)プレロードによる生の沈下曲線を見たい。
- (4)プレロード除去時の圧密度と累計沈下量は概ねいくらだったか。
- (5)当該基地の水深はいくらだったか。

等々、メモをとるのが間に合わない程の活発な質問がなされた。

ところで先程の見学コースは、必ずしも施工順通りとはなっていないので、1タンクについて施工のフローを振り返ってみたい。

埋立完了⇒引渡し⇒事前ボーリング調査及び沈下計埋設⇒プレロード盛土(斜面は飛砂防止剤散布)⇒放置(この間沈下計測)⇒圧密度90%⇒プレロード除去⇒サンドコンパクションパイル打設⇒チェックボーリング⇒マウンド下部盛立⇒RCリング構築⇒マウンド上部盛立⇒アスファルトサンド工⇒タンク組立

時間にすればわずか2時間ではあったが、原油タンクの基礎処理から、タンクの組立てまでのすべてを見学させて戴き、通常の工事ならば2ヶ年分の収穫があったような気がする。

(次ページにつづく)

(行事レポートつづき)

最後に、本行事の実行に当り、多くの資料作成からその説明、涼の提供など全面的に支援いただいた前田建設工業株の大串所長を始め、職員の方々に深甚なる謝意を表すものである。

なお、同社では本件業務の実施に当り、

事前調査・諸検討等かなりの投資をされ、さらに「品質保証」を重点実施項目に取り上げ、協力会社を含めて全社的にこれに取り組んでこられたとのことであった。

その結果は、施主に確認するまでもないであろう。今後の更なる発展をお祈りしたい。

以上 (行事レポートおわり)

水 論 談 ◇ アメリカに見る高速交通体系について

中島 重旗 (熊本・建設部門・熊本大学教授)

平成元年9月にアメリカとカナダをウォーターフロントの調査で旅をした。

日本からは成田発NW航空で約11時間、ジャンボジェット機で直接アメリカのデトロイトに到着入国した。その後、直ぐ広大なエアターミナルビル内の絨毯の上を静かに、人の速歩き程度に動く電動モータバスに乗る。

手すりだけのあるコーチだ。もちろん若者は歩いて移動すればよい。水平に動くエスカレーターもある。荷物だけを積んで歩いてよい。国際線から国内線のカウンターまでものすごく広大な建物なので、移動距離はあるがちゃんと工夫されていて、お年寄りもベビーもそれ程苦もなく移動できる。移動手段の選択肢が多く、ただ広さに対する苦情はない。

国内線はエアバスまたは727クラスの中型飛行機である。アメリカ北部カナダへの出口シラキュース国際空港でも同じであった。ジャンボ機が世界の空を飛び始めて20年になるが、その間日本は国内、国際線ともジャンボ機化を目指してきた。

しかし、既に世界の空では、国際線は経済的大量輸送のジャンボ機、国内線は中型でバス並みに便数を増やす便利さの方向へとなっている。

さらに、近距離や辺りな所へは、セスナやヘリコプターによるコミューターとなっている。

安あがりの旅行には、もちろん長距離グレイハンドバスがハイウェイを走り、街の中心部、便利なダウンタウンセンターに運んでくれる。全米各地へ結構便数も多い。6年前に、

アメリカを3カ月間訪問した時はサンフランシスコからニューヨークまでグレイハンドバスで旅行した。運転手は絶対で、ヨッパライなどは乗せないし、騒ぐ人がいると静かにさせたり、つまみだすことさえある。アメリカの地方都市、農村都市を目の当りに見て旅行できるし、バスの中や途中のバステポで、地元の人々と気さくにいろいろな話ができる。私は時間さえあればゆっくりとしたバス旅行が大好きだ。若者や学生が結構乗り込んできていた。

鉄道ではワシントンからアトランタまで、グレイに赤線のはいったカラーのアムトラックに乗った。夫婦だったのでファミリープランフェアの割引バスで乗る。車両は広軌、両側2シートずつでゆったりとしている。エクスプレスであったが、朝早くワシントン出発、夕方アトランタ着の長旅で、アメリカ東部の林や畠、農場・農家、地方の小都市とさまざまに変わる風景を満喫することができた。

以前にヨーロッパを旅行したときは、イギリス・フランス・ベルギー・ドイツ・イタリアすべてスワンの周遊バスによる国際列車を利用したが、快適だった。全く日本の新幹線と同じである。

もちろん高速交通にはマイカーによるハイウェイがある。ロスからグランドキャニオンで一泊、ラスベガスへと友人のマイカーで旅をした。砂漠の平原、いけどもいけどもカクタスばかり、貨物を運ぶ大型トレーラーがさまざま、くたびれた記憶が残っている。

(次ページにつづく)

（論談つづき）

上りと下り車線が200メートル以上も離れていて、対向車を心配しなくてもよいドライブでもそれである。それに比較すると日本のハイウェイはもっと大変だ。

アメリカの都市交通は道路が広いので、マイカーが主流である。しかし、大都市はカー台数が増え、交通渋滞で困り、一方通行の規制や信号のタイムラグ等で凌いできている。大気汚染の問題も加わり、ワシントンを始めサンフランシスコ、アトランタ等地方大都市は地下鉄による大量輸送で、カーの交通渋滞を解消しようと努力し始めている。とくにアメリカの地方都市の住宅地はただ広いのが普通で、どうしてもマイカーが必要である。それで郊外の住宅地から、最寄りの広い駐車場をもつ地下鉄駅までマイカーでということ、市中心部オフィス街の交通問題の解消を目指している。ワシントン・サンフランシスコ・カナダのトロントなど、すばらしい地下鉄の駅であり、コーチも乗り易く、内部もさまざまな工夫がこらされている。

アメリカは世界一の航空網を有する国で、どんな小さな地方都市でも空港があり、飛行機の便数は日本の鉄道、バス並みで、主要都市の空港では頻りに離着陸が繰り返されている。世界の高速交通はジャンボ機が主流、アメリカへ日本からの直行便がある空港は実に10カ所、広い広いアメリカだから仕方ないとは云え、ダラス国際空港などめっちゃうちに広い。ターミナルビル間はエアトレーンで連結、ランウェイはいくつあるかわからないくらい、とにかくランウェイに向かう飛行機が5～6機数珠繋ぎになって進んでゆき、それぞれのランウェイからつぎつぎに出発していく姿は壮観だ。飛行機はすべて航空会社別コンコースのスポットで、客は直接飛行機に乗り降りする。しかも便数が多いので、乗る飛行機の変更は極めて容易、簡単である。アメリカ国内線が日本の鉄道、バス並みに飛行機を小型に便数を増やしてきたので、客数が伸び、運賃が安くなるという良い結果になり、どうやら飛行機が鉄道にとってかわり、やがて遠距離バスもくいそうな勢いである。

したがって、アメリカ社会は遠距離を飛行機で移動し、飛行場でカーをレンタルして小廻りに動くというパターンになってきている。

鉄道はのんびりと旅をしたい人、本数も少なく多少不便にはなっている。

遠距離バスは経済的には安く便利で、全米を網羅しているので、飛行機と共に選択肢として残っていくに違いないと思った。

都市内交通はもちろんマイカーが主役ではあるが、徐々にマストランスポートの地下鉄との組み合わせで、市中心部の交通渋滞解消の方向にある。

今度のアメリカ旅行では、熊本空港で直接スポットから飛行機に乗り込んだが、羽田空港ではバスでターミナルビルへ、しかも羽田からリムジンバスで2時間以上、途中ハイウェイの交通渋滞で時間を気にしながら、ようやく成田国際空港に到着できた。なんと国際空港のボーディングがバス、そして快適なアメリカ各地の飛行機の旅を終えて帰国した第一歩が、成田空港の上空で着陸の時間待ち、ランディング後飛行機はずれのスポットでバス待ち、せっかく時間通り成田上空に着きながら上空ウェイティングやバスによる上陸、羽田国内線へのハイウェイ渋滞、お陰で熊本空港への最終便に間に合わず、福岡空港への便に乗り換え、JRでおそく熊本へ到着した。出迎えの家族は思わぬ予定変更で右往左往であった。

これが経済大国日本の実態かと、がっかりというより、政治の貧困にかなしくなった。

外国との経済摩擦で、海外の土地やビルを買いあさるより社会基盤の整備にもっと投資をと外圧がかかるのも、交通を比較しただけでも当然とうなずける。アメリカの人口、経済力を比較して、日本には国際空港が5カ所くらいあっても少しもおかしくない。皆さんはどうお考えになるでしょうか。

（おわり）

◎中四国支部、九州支部、経営工学部会、
機械部会共催 工場見学と講演会開催

日時：平成3年9月27日(金) 13:00~19:30
" " 28日(土) 9:00~12:00
集合：" " 27日(金)新幹線新倉敷駅
工場見学：安田工業(株) 27日 13:30~16:00
懇親会：岡山市サソビル " 17:30~19:30
(途中 岡山県流通センター見学)

情報交換会：(中四国支部、九州支部、
経営工学部会、機械部会)
28日 9:00~10:00

講演会：
「岡山空港の国際化による産業振興構想」
岡山経済研究所 大崎 泰正 主任研究員
28日 10:00~12:00
現地解散：" 12:00頃

◎韓国の駐在だより

(韓国に技術指導のため滞在中の高橋興一
先生のお便りを紹介します。)

暑中お見舞い申し上げます。皆様ご健
てご活躍のことと存じます。去る7月25日に
"技術士だより8月号"並びに、平成3年度
定時総会議案書をお送り頂き厚くお礼申し上
げます。早速読ませて頂き、新役員の方々の
ことを始め、昨年度の各部会、各個人の方々
のご活躍及び最近のご活動を伺うことができ
まして、色々と思いを巡らせなつかしく思っ
ております。ありがとうございます。情報の
乏しい私共には本当にうれしいことです。

私も当地へ参って来る9月で2年となりま
す。始めは異国での生活及び技術アドバイス
といった面で辛い思いも致しましたが、今で
はすっかり馴れました。会社の方も順調に伸
びて、現在は日産1350トンの鋳鋼工場となり、
韓国の中では古参工場を追い越してNO.1の生
産を誇る工場となりました。これからは量だ
けでなくて質的にも優れたものの生産に努め
ることが大切でしょう。

技術士として国際協力にはどのようなことが
考えられるのか等につきましては、既に諸先
生方のご経験談やご報告がっており、国は
違っても基本的には同じと思います。技術に
は国境はないが技術者には国境があるとい
うことを耳にしたことがあります。やはりそ
の国の国民性、風俗、習慣、考え方をよく知
って、その上に立って共に考え、指導をし
て行くことが大切と思っています。特に現場作
業などでは、英語・日本語の勉強をしている
方々も限られていますので、現地の言葉の片
言でも、又は単語とジェスチャーでもコ
ミュニケーションを行うことが大切と思っ
ています。勿論このことは自分の日常生活に於
ても自分の行動範囲や向こう3軒両隣のな
幅を広げることになり、生活も楽になって参
ります。実は会社の再三の希望によりまして、
後1年間の滞在延長を致すことになるかも分
かりませんが、何とぞ今後共よろしくお願
い申し上げます。では末筆ながら皆様のご健康
をお祈り申し上げます。先はお礼まで。

◎新技術紹介◎

排水性舗装

最近、道路舗装の分野では「排水性舗装」
に対する関心が高まっている。

この舗装は、雨水を路面に滞水させること
なく、すみやかに路外に排除することにより、
雨天走行時の、①水はねの防止あるいは緩和
②高速走行時のハイドロプレーニング現象の
防止、③夜間走行時の対向車両のヘッドライ
トの路面反射による眩惑防止や車線表示の視
認性向上など、路面湿潤時における走行安全
性の向上を目的にしたものである。

また、走行騒音を低減する効果もあるとい
われている。

一般的なアスファルト舗装の表層が空隙率
5%程度で、透水係数も $10^{-7} \sim 10^{-8} \text{cm/sec}$
程度の緻密なものとしているのに対し、細骨
材を少なくすることにより、アスファルト混
合物内部に連続的な空隙をもたせたものであ
り、空隙率15~20%程度で、透水係数は 10^{-2}
 $\sim 10^{-1} \text{cm/sec}$ 程度である。

(福岡/建設・日本道路(株)九州支店
小川 康夫)



会員ニュース



☆社団法人日本技術士会(九州支部)入退会

(区分)	(地区)	(氏名)	(業種)
入会	福岡	大田 修明	農業
"	長崎	福岡 辰義	建設
"	福岡	是石 俊文	"
退会	"	渡部 金助	化学
"	熊本	武上成比古	農業
"	福岡(轄)	那須 修一	建設
入会	熊本	野崎 能敬	"
"	"	青木 茂夫	衛生工学
"	福岡	瓜生 正樹	建設
"	"	前田 剛志	"
"	"	諸藤 元信	"
"	"	上村 正人	"
"	長崎	平原 宏志	"
"	熊本	中山 信春	農業

☆九州地方技術士センター入・退会・転出

(区分)	(地区)	(氏名)	(業種)
入会	宮崎	正領 中山 法親	農業
"	佐賀	島内 明	建設
退会	福岡	園尾 恭司	"
"	大分	箱田 信幸	応用理学
入会	福岡	中尾 鎮彦	水道
"	北九州	三浦 三郎	"
"	福岡	小松 路代	応用理学
"	"	轄領 那須 修一	建設
退会	佐賀	松尾 義彦	応用理学
"	長崎	平原 宏志	建設
"	中四国	杉本 孝	応用理学
"	佐賀	島内 明	建設

☆会員勤務先(住所)および連絡先変更

1. 真鍋 和義 (水道)
勤務先 〒815 福岡市南区大池2-18-1
福岡市水道局高宮浄水場
TEL (092)521-6938
2. 竹元 幹生 (応用理学)
勤務先 〒890 鹿児島市西田2-27-16
本田ビル2F
南九地質株式会社
TEL (0992)85-0915
3. 北村 邦彦 (衛生工学)
勤務先 〒810 福岡市中央区渡辺通2-9-22
(株)福岡エネルギーサービス
TEL (092)713-5635
4. 田中 秀男 (建設)
勤務先 〒814 福岡市早良区藤崎1-1-40
第2東亜ビル5F
西日本開発コンサルタント(株)
TEL (092)841-3171
5. 迫 秋一 (建設)
勤務先 〒815 福岡市南区大楠3-19-29
昭和地下工業(株)
TEL (092)531-2236
6. 石田 利夫 (建設)
勤務先 〒810 福岡市中央区大宮町2-5-5
近代技術コンサルタント
TEL (092)522-6211
7. 梁田 信河 (建設)
連絡先 〒813福岡市東区香椎駅東1-31-22
セジュール香椎 C101
8. 太刀山 透 (水産)
連絡先 〒813 福岡市東区唐ノ原
2-3-18-203
TEL (092)672-2264

-以上、平成2年7月1日~9月30日

受付順、敬称略-

(会員ニュース おわり)

◎(株)日本技術士会九州支部・九州地方技術士センター 地区別会員数(平成3年7月31日現在)

地区	支部 正員 幹員		センター 正員 幹員		合計	地区	支部 正員 幹員		センター 正員 幹員		合計
	正員	幹員	正員	幹員			正員	幹員	正員	幹員	
福岡	96	10	199	35	340	熊本	21	2	20	16	59
北九州	30	3	50	7	90	大分	19	4	23	6	52
中四国	-	-	4	20	24	宮崎	11	4	19	6	40
佐賀	5	1	13	4	23	鹿児島	14	-	34	10	59
長崎	20	5	29	6	60	合計	216	29	392	110	747

◇会誌”技術士”最近号の主要目次◇

☆8月号

- ・提言
地球へ貢献しよう /池田 豊
- ・私の技術士業務
夢を追って18年 /土橋 豊
- ・研修のページ
接着剤の知識(1) /堀 武

☆9月号

- ・私の提言 /辻 薦
- ・私の技術士業務
中国における業務開発 /篠原 捨喜
- ・研修のページ
接着剤の知識(2) /堀 武
赤外線的应用雑感 /宮川 實

 編集後言己 

☆ソ連のクーデター

共産党独裁は昔の夢! 民主化の波、連邦も各共和国独立に対抗できるのか? 「核の管理」こそ、連邦の生き残る決め手とか?

☆雲仙・普賢岳の動向

マグマがおとなしくなるのはいつか?
当事者にとっては生死に関わるような重大問題なのに。最新科学の“泣きどころ”か?

天変地異には保険も適用されぬとは、今更再認識しても、どうにもならぬことか。

☆ 対策立ため問題が多すぎる世の中。その1つ「登録即入会」何とかしたいもの。(小)

★投稿を募る★

技術士の主張・賛助会員(会社)の紹介など、技術的または一般的なことでも結構です。積極的な皆さんの投稿をお待ちしております。

(200字詰め原稿用紙2~3枚程度、
支部事務局宛)

☞福岡地区からの活動報告

☆第2回福岡地区役員会

日時:平成3年8月24日(土) 13:00~16:00

場所:福岡市 福岡商工会議所

議題:

- (1) 第1回例会の行動目標の具体的方針
 - ・代表幹事 水上 信照
 - ・幹事 笠木 直行 重富 秀雄
久保田信一 是石 俊之
 - ・会計監査 江崎 親教 矢野 友厚
 - ・青壮年部結成のため会員の年齢別名簿の整備を急ぐ、年内に設立を図る。
- (2) 地区活動の事務費運営について
 - ・古賀事務局長に願う。

発行:(株)日本技術士会・九州支部
九州地方技術士センター

〒810 福岡市中央区大名1丁目

12-61 新天ビル402

☎(092)771-9534

編集:九州支部・総務委員会